

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100364		
法人名	有限会社ひかりサービス		
事業所名	グループホームジョイア矢作 1階		
所在地	愛知県岡崎市矢作町字尊所63番地		
自己評価作成日	平成27年12月24日	評価結果市町村受理日	平成28年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしい人生をそっとサポートいたします。」の理念のもと、認知症高齢者が安心して暮らし、生きる喜びを実感していただけるよう、支援していきます。そして、地域の人々が将来にわたり、安心して質の高い介護を受ける権利を享受できるよう、介護に関する質の向上と後継者の育成に力を注ぎます。また、地域交流スペースを活用することで、地域連携の一翼を担うべく、努力いたします。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2392100364-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、開設初年度であるが、ホームの運営法人は関連法人と合わせて県内に複数の介護事業所を運営していることもあり、法人で定期的な研修会の機会を設けたり、管理者同士での意見交換の機会もつくられていることで、職員の資質向上に向けた取り組みにつながっている。その他にも法人の担当職員による必要に応じた支援も行われており、ホーム運営上の課題解決等、ホームの円滑な運営につながる取り組みが行われている。家族との交流会等の取り組みについても、法人の関連事業所で行われている行事を当ホームでも同じよう開催しており、家族との交流の機会につなげている。ホーム独自の取り組みとして、ホーム建物2階には、地域の方との交流も目的とした交流スペースが用意されており、地域の方が訪問した行事等の開催につながっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年1月6日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝、朝礼にて理念を復唱して、現場にて実践出来る様、日々努力をしている。	運営法人の理念に加えて、利用者がその人らしく生活することを目指した、ホーム独自の理念を作成しており、ホーム内への掲示も行われている。また、法人で毎月のスローガンを唱和する取り組みも行われており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事にご利用様と職員が参加することは出来ているが、事業所の行事に参加していただけるよう、地域との交流をもっと深める必要がある。	地域の方との交流については、今後に向けたテーマでもあるが、ホーム2階に設けている交流スペースを活用した押し花教室等の取り組みを予定している。また、地域の団体との交流の機会もつくりたい。	地域の方との交流を目的としたスペースを用意する等、ホームでは交流に前向きでもある。ホームの取り組みを継続することで、徐々に関係が深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現時点では生かしているとは言い難いが、地域交流スペースを活用するなどして、機会があれば情報発信するよう努めたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	参加された皆様のご意見やご提案を検討し、実践するよう努めている。	会議の際には、ホームの運営状況等を資料にまとめて報告しており、出席者にホームの現状を知ってもらうように取り組んでいる。また、会議の際には、薬剤師の方の出席も得られており、医療面での助言にもつながっている。	現状、会議の出席者が限定されていることもある為、地域の方や家族の出席が得られるように、開催日時の見直しや継続した出席への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	現時点では、市町村担当者からの働きかけに、受け身で対応しているが、積極的に働きかけよう、努力していきたい。	市内の介護事業所が集まる連絡会や講習会等の際には、ホームからも出席しており、情報交換等の機会につなげている。また、地域包括支援センターで行っている取り組みに関する情報交換等にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠以外は、身体拘束は全く行っていない。	ホームは身体拘束を行わない方針のもと、1階と2階のユニット間の移動も自由に行われており、職員間での連携や見守りが行われている。また、運営法人で研修会の機会をつくり、職員の振り返りにもつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員向けに勉強会を開いたり、年1回職員へ虐待の聞き取り調査を行うなどして実態を把握し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会までは設けていないが、必要性があれば、関係者と話し合い、それらを活用した支援をするよう、努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行った上で、不安や疑問点があれば、さらに詳細に説明し、理解・納得して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者や職員については、ユニット会議やカンファレンスを通じて、反映させる様になっているが外部者については、今後運営に反映させるよう、努めていきたい。	ホームで開催する行事の際には、家族にも案内を行っており、家族との交流の機会をつくっている。定期的な面談の機会を設けたり、意見箱の設置も行われている。また、毎月、職員が利用者毎に便りを作成しており、利用者の様子を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員はユニット会議やカンファレンス、ユニットリーダーや管理者は、グループ各施設が集まってのリーダー会議、管理者会議を実施して、意見や提案を聞く機会を設けており、反映させるよう努めている。	毎月のユニット毎での職員会議が行われており、現場からの意見や要望等は管理者を通じて、法人にも報告されている。また、法人で専門の部署を立ち上げる等、職員からの意見等の把握につなげる取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常日頃、努力や実績、勤務状況を把握し、処遇改善加算を活用した給与水準の向上、長時間労働にならないよう、休憩時間の取得や定時での退勤の声かけ、資格取得補助の実施などで、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での勉強会の実施や、外部研修の参加について積極的に申し込むなどはもちろん、個々の力量に合わせて、必要に応じて相直勤務での指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者参加の見学会を地域交流スペースで実施したり、同業者参加の会議などへの出席を通じて、相互訪問はしていないが、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時に詳細なアセスメントを行い、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に詳細なアセスメントを行い、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメント時、他のサービスが必要であると判断した場合は、本人と家族等に提案するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人が可能な限り、買物や食事作り、後片付けや洗濯物たたみなどへの参加を促し、共に生活していることを実感して頂けるよう、努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた時はもちろん、毎月メッセージカードを書くなどして、日ごろのご様子をお伝えすることで、共に本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人については、家族等に確認をとり、面会可能な方であれば、ご来所していただき、関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の入居前からの友人、知人との交流を継続している方や行きつけの理美容を継続している方がおり、馴染みの方との関係継続につなげている。また、家族との外食や買い物その他、時には、墓参りや法事等で家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションへの参加の声をしたり、トラブルが発生した際はすぐに対応するなどして、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、男性、女性、関係なく気の許し合える様、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	現時点では、そうした機会がないため、相談や支援は実施していないが、必要があればそうするようにしたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ユニット会議やカンファレンスを通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めているが、困難な場合も、出来るだけ本人本位に検討するように努めている。	職員は担当制も活用しながら、利用者毎の情報の把握や毎月の便りの作成等、職員間で利用者に関する意向等の把握に取り組んでいる。また、職員間でのミニミーティングの取り組みも行われており、職員間での情報の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	詳細なアセスメントを行い、それをアセスメントシートに落とし込んだうえで、職員にも随時情報提供することで、把握してもらうよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご家族様との関係を把握するよう努め、日々観察し、変化があれば申し送りを実施し、様子を見ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	詳細なモニタリングを実施し、計画作成担当者が本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は基本3か月毎に見直しており、毎月のカンファレンスを通じた、3か月でのモニタリングが実施されている。また、1日1ページの記録用紙やケアプランチェック表を用意しており、職員の日常的な気付き等を記録に残るように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	計画に沿ったケアプラン実施表を日々記入し、気づきや工夫については、ケース記録や個人ノート、申し送りを通じて、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	3か月に1度、ケアプランの見直しを実施することで、本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現時点では協働できているとは言い難いが、機会があれば支援するよう努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	提携医療機関外のかかりつけ医の継続も、出来るだけ提携医療機関と変わらぬ対応をするよう、努めている。	協力医による月1回の訪問診療が行われている。受診は家族による受診支援を基本にしつつ、必要に応じてホームでも対応している。また、ホームの看護師の他にも法人代表者が看護師でもあるため、ホームからの健康面での報告等も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職へ、日頃の様子や身体の変化を伝え、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう、話し合いを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、随時様子を見に伺い、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重点的に説明し、同意書を取り付けており、必要に応じて地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ホームでは、看取りについても前向きに取り組んでおり、協力医との連携も深めながら、ホームでの看取り支援を行っている。家族とは段階に合わせた話し合いを行っており、利用者、家族の意向に合わせた支援に取り組んでいる。	開設1年目での看取り支援でもあったため、職員への研修、指導等が今後に向けた取り組みがテーマにもなっている。ホームでの取り組みを振り返りながら、今後活かされていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	現時点では、社内研修は行っているが、応急手当や初期対応の訓練は定期的に行っているとは言い難いので、実践力を身に付けていけるよう、努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の防災訓練時、日中はもちろん、夜間時の対応も訓練しているが、地域との協力体制は築けているとは言い難いので、今後努力したい。	避難訓練については、今年度中に2回の実施を予定しており、職員間で通報装置や避難誘導等の確認が行われている。また、地域の避難場所の確認も行われているが、地域の方との協力関係については、今後に向けたテーマでもある。	ホームで支援可能な取り組みを考えながら、今後に向けた地域の方との協力関係の構築に期待したい。また、法人で検討を行っている備蓄品の確保についても、今後の実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシー確保の研修を実施したり、接遇についても研修や、朝礼時復唱する、毎月のスローガンにも丁寧な声掛けの実践を盛り込むなどして、声掛けに気を付けている。	法人に専門の委員会を設置し、毎月のスローガンを決める取り組みを行っている。職員が日常的にスローガンを唱和することで、利用者の尊厳やプライバシーの配慮につながるよう取り組んでいる。また、法人で接遇に関する研修会の実施も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや希望を表したり、自己決定できるような声かけを心掛け、実践するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り一人ひとりのペースを大切に出来るよう、職員間でフォローしながら、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来るだけ自己決定して頂けるよう声かけし、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な方であれば、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューをユニット毎に職員で考えており、利用者の好みや嗜好にも配慮している。利用者も一緒に買い物に出かけたり、調理や片付け等にも参加している。また、週1回、「ホットプレート」の日を設けており、利用者の参加した食事やおやつ作りが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量を記録して把握し、同じようなメニューにならないよう、献立作りに努めている。また、一人ひとりの状態や力、習慣も把握し、食事の形態や手段の変更など、それに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	その方の状況に応じて、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた声かけ、口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	適切な声かけと介助を行い、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	職員は、利用者全員の排泄状態を記録しながら、申し送りと合わせて、情報の共有につなげている。医療面での連携を深めたり、車椅子で生活している方もトイレで排泄できるように、必要に応じて職員2名で介助する取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	社内研修を実施して理解を深め、ユニット会議やカンファレンスなどを通じてはもちろん、日ごりの様子観察などから個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	ご自身の希望やタイミングで入浴できる方はそうしているが、出来ない方についてはこちらで声かけて入浴して頂いている。	入浴については、週2回程度となっているが、利用者の状況等にも合わせた対応も行われている。入浴を拒む方には声かけ等の工夫が行われている。また、入浴剤を使用している他にも、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動量に気をつけるなどして、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情などに留意して、薬の変更があれば申し送りして、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味なども考慮しながら、散歩や体操、レクリエーションを実施し、家事を中心とした役割参加を行うよう、努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日頃の散歩や買物などのほか、家族や地域の人々と協力しながらではないが、外出レクなども実施している。	ホーム周辺を散歩したり、買い物に出かける等、日常的に外出できるように取り組んでいる。また、ユニット毎に外出行事を考えており、地域の行事に参加したり、季節に合わせた花見や公園に出かける取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には管理者によって金銭管理しているが、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	管理者が家族に確認の上、問題なければ電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	冬場、畳コーナーのテーブルをコタツにするなどして生活感を出したり、空調管理を適切に行っている。また、利用者と一緒にレクで壁飾り作成して季節感を出すなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム内のリビングや通路はゆったりしており、落ち着いた色彩の壁紙となっている。庭には花壇や畑が用意されている他にも、畳ルームがあり、寛いでいる方もいる。また、習字等の利用者の作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるよう、様子を見ながら声かけするなどして、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、なるべく使い慣れた物を持って来て頂き、居心地よく過ごせるよう、努めている。	居室には収納スペースが設置されていることで、車椅子の方も広く使うことができる。シンプルな雰囲気の居室がある一方で、馴染みのある家具類を持ち込んだり、家族の写真飾っている方もあり、利用者に合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	表示物や掲示をするなどして、一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		